

〈解答〉

- 1 ① けいりゆう ② 珍 ③ あいまい ④ 困惑
 2 a 女 b 10 (完答)

3 工
 4 慢

5 I 六 II ア

6 カ行変格活用 連用形 (完答)

配点 各1点 10点満点

〈解説〉

- 1 ① 「溪流」とは「谷を通る川の流れ」のこと。「溪」を使った熟語には「溪谷(山や丘などの高地にはさまれた、低くなっている細長い地域)」「雪溪(夏でも解けずに雪が残っている山の谷間や斜面)」などがある。
- ② 「珍」の音読みは、「チン」であり、「珍書(めずらしい書物)」「袖珍(そでに入るくらいに小型なもの)」などの熟語がある。
- ③ 「曖昧」とは「はっきりしないこと」や「確かでないこと」のこと。
- ④ 「惑」の訓読みは、「まど(う)」。 「惑」を使った熟語には「疑惑(不正があるのではないかなどと疑いをもつこと)」「迷惑(ある行為がもとで、他の人が不利益を受けたり、不快を感じたりすること)」「当惑(どうしたらいいか途方にくれること)」などがある。
- 2 「嫌」の部首は女である。よって、 a には「女」が入ることがわかる。また、刀(刃)の部にある「5」という数字は、部首以外の画数を表しているため、 b には「10」が入る。
- 3 「あることのために、わざわざ出向くこと」という意味の慣用句である工「足を運ぶ」が適当である。ア「足を洗う」は「悪事やよくない仕事をやめて正業につくこと」、イ「足が付く」は「犯人の身元や逃げた足どりがわかること」、ウ「足が出る」は「隠していたことが表向きになること」「予算や収入をこえてお金が多くかかること」、オ「足が早い」は「食物などが腐りやすいこと」などを表す慣用句である。
- 4 「謙虚」とは「控え目で、つつましいこと」「へりくだって、すなおに相手の意見などを受け入れること」という意味であり、その対義語には、「高慢」「横柄」「尊大」などがある。よって、 には、「慢」が入ることがわかる。
- 5 自立語とは、動詞・形容詞・形容動詞・名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞のことである。「日本人は物事をはっきりといわないから欧米人に理解されない」という文にふくまれる自立語は、「日本人(名詞)」「物事(名詞)」「はっきり(副詞)」「いわ(動詞)」「欧米人(名詞)」「理解さ(動詞)」の六つである。また、「欧米人に

理解されない」を品詞にわけると、「欧米人(名詞)／に(助詞)／理解さ(動詞)／
れ(助動詞)／ない(助動詞)」となるため、アが適当である。
6 傍線の部分「き」のあとにある、過去を表す助動詞「た」は、用言の連用形に接続す
るため、「き」はカ行変格活用の動詞「くる」の連用形である。